

コンプライアンスへの取り組み

～私たちはコンプライアンスへの高い「感度」をもった企業風土を目指します～

当社では、コンプライアンスへのこれまでの取り組みを強化し、企業活動の底流を支えるものとするため、基本方針に、コンプライアンスリスクを自ら抽出し、対応策を検討する「コンプライアンス感度の高い組織」と、潜在的なコンプライアンス問題をそのままにしない「規律意識の高い企業風土」作りの2つを掲げ、新たな取り組みを開始しました。

具体的には、今年度より“リスク管理”の全面的な見直しを実施、新たな“リスク管理活動”としての再構築を行っています。この“リスク管理活動”をコンプライアンス活動の軸に位置づけ、全社的な展開を開始しました。

また、この活動を支えるために、「制度・しくみ」、「教育・啓発」、「組織・体制」の3つの視点から諸施策を実施しています。

<リスク管理活動を支える3つの柱>

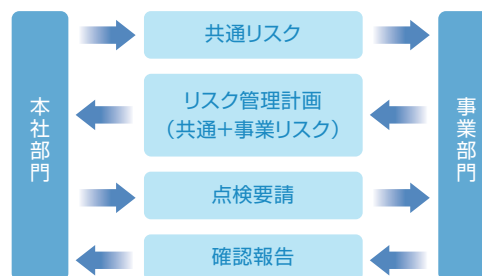
制度・しくみ	<ul style="list-style-type: none">● “リスク管理活動”の再構築● 社内規程の整備・見直し
教育・啓発	<ul style="list-style-type: none">● 経営トップも含めた法令教育の実施● 全社研修の見直し● 過去の事例に学ぶ取り組み
組織・体制	<ul style="list-style-type: none">● コンプライアンス統括室兼務者配置● 本社スタッフによる進捗確認・事業所訪問

この“リスク管理活動”では、本社部門よりコンプライアンスにかかわるリスク項目を整理・分類し、それぞれのリスク項目に関する法令解説や改正への動き、過去

発生した社内事例等を織り込んだ上で、全社の「共通リスク」として各事業部門へ発信します。事業部門は、この「共通リスク」に、事業独自の「事業リスク」を加え、事業年度の「リスク管理計画」として作成し、計画を実行します。さらに、年度末には本社部門の点検要請に基づき、全部署がその組織の「リスク管理状況」を確認します。

この新たな“リスク管理計画”は、法令や社会の変化に応じて本社部門より発信される「共通リスク」と連動させながら、各事業部門が事業計画に連動する「リスク管理計画」を毎年、策定・実行・点検することで、事業運営の中でPDCA (Plan, Do, Check, Action) のサイクルが着実に回ることを目標とするものです。

<リスク管理活動のサイクル>



当社では、これまででもコンプライアンスを経営の最重要課題の一つとして取り組んでまいりましたが、これからも経営陣が先頭に立ち、コンプライアンスの徹底を事業のなかで検証し続けることで、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化をもった企業を目指します。